

令和元年度釜石商工会議所経営発達支援計画評価表

令和元年3月25日

【総合評価】	
A: 概ね目標に達したと認められる	B: 継続して取り組むべきと認められる
C: 改善が必要と認められる	D: 見直し、廃止を検討すべきと認められる

項 目	実施概要	目標	実績	自己評価	自己評価コメント	総合評価
I. 経営発達支援事業の内容						
1. 地域の経済動向調査に関すること						
(1) 1次データ						
・経営状況調査	小売業・サービス業および製造業等の事業者へ、環境変化に関するヒアリングを行い、個別の課題について調査した。	1回	1回	A	消費増税とラグビーW杯の開催に合わせて、経営状況の調査を行った。消費税に関してはキャッシュレスに対応出来ていない事業者への導入促進につながり、ラグビーW杯においては、店舗の情報発信につながった。	A
・景気動向調査	前期・後期と2回実施、会報、ホームページで公表した。	2回	2回	B	調査を実施したが、公表が十分ではなかった。	B
・LOBO調査	日本商工会議所を通じて実施、会報で公表し情報提供を行った。	12回	12回	B		B
・商店街通行量調査	2年に1回の実施年であり、会報で公表した。	1回	1回	B		B
(2) 2次データ						
・岩手県消費購買動向調査	岩手県消費購買動向調査は調査年ではなかった。(5年に1回実施)	数値設定なし	実施なし	—	調査該当年ではなかった。	—
・釜石市民買物行動調査	釜石市買い物行動調査は、調査年ではなかった。(不定期に実施)	数値設定なし	実施なし	—	調査該当年ではなかった。	—
・岩手県商店街実態調査	岩手県商店街実態調査は、調査年ではなかった。(3年に1回実施)	数値設定なし	実施なし	—		—
・岩手経済研究所の調査レポート	岩手経済研究所の調査レポートについては、個別に必要なに応じて報提供した。(毎月の会報からピックアップして活用)	数値設定なし	個別に情報提供した	C	個別案件で必要な情報について、情報提供を行った。	C
2. 経営状況の分析に関すること						
・外部環境の分析 ・内部環境の分析 ・経営成績、財政状態等の分析	中小企業相談所全員で巡回する事業者を事業者を検討し、これまでに経営計画の策定に取組んでいない事業者の発掘に意識的に取組んだ。 セミナーは、事業計画策定支援と併せて実施した。 経営分析においては、内部、外部の環境分析について、精度を高められるように分析の仕方を工夫をして取り組んだ。 財務諸表の分析においては、今年度新たに取り入れた経営支援ツールを用い、複数年比較等視覚的にも分かりやすい分析を行った。	①巡回	①巡回	A	経営状況分析を実施するための事業者巡回は十分に行うことが出来た。セミナーは目標開催数に1回足りなかった。しかし、経営分析の件数は目標を大きく上回ることが出来、量的には十分な実施をすることが出来た。今後は、定量・定性のより効果的な分析を心がけたい。	A
		(600件)	(722件)			
		②セミナー等	②セミナー等	B		B
		(6回)	(5回)			
		③経営分析件数	③経営分析件数	A		A
		(60件)	(85件)			
3. 事業計画策定支援に関すること						
(1) 事業計画策定支援	計画策定のきっかけづくりとして、小規模事業者持続化補助金等に併せた経営計画の策定として延べ68事業者が取組んだ。今後は計画はブラッシュアップし、結果に結びつけるための支援を行う必要がある。 ものづくり補助金の事業計画策定は、数事業者が取組んだが、1事業者に留まった。	セミナー10回	セミナー3回	B	計画策定件数は目標を下回っているが、十分な事業者数を支援することが出来た。セミナーについては、目標値が大きいため回数は達成できなかったが、今後は次期計画の中で目標件数を実現可能な設定で実施したい。	B
		計画策定事業者数90事業者	計画策定事業者数68事業者	B		B

項 目	実施概要	目標	実績	自己評価	自己評価コメント	総合評価
(2)創業・事業承継支援	創業支援は10事業者が創業計画の策定に取組んだ。 事業承継は14事業者が事業承継計画の策定に取組んだ。	勉強会等 12回	勉強会等 3回	B	創業希望者の発掘や、事業承継予定者の発掘が課題である。創業については、商工会議所のみでは難しいことから、市と協力して実施する必要がある。事業承継については、事業計画策定の延長で計画策定に取り組んでいきたい。	B
		創業支援者数 45者	創業支援者数 10者	B		B
		事業承継支援者数 30者	事業承継支援者数 14者	B		B
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること						
経営課題の把握、市場の需要に対し、強みを発揮する計画の実行支援を行う。	実行支援においては、事業者の各担当者を中心に、巡回、電話等でのフォローを中心に取組んだ。また、売上利益の状況について、確認する等、成果に結びつくように心がけ実施し、計画の見直し等も支援した。 創業後の事業者においては、決算申告の個別相談やセミナー等も実施して支援した。	実行支援者数 90事業者	実行支援者数 137事業者	A	経営状況分析、事業計画策定を通じて取組んだ結果、長年の営業損失体質を改善したり、後継者候補を通じて販路開拓に取り組むなど、分析から計画策定、実行、実行後までの一貫した支援の成果が出てきている。	A
		フォローアップ件数 630件	フォローアップ件数 548件	B		B
5. 需要動向調査に関すること						
事業者商品の需要動向について、地域経済動向調査等により収集、分析し、相談内容に応じ情報提供を行う。 小売り現場での生の需要動向について、売れ筋、市場性のある商品について情報収集、情報提供を行う。	計画作成、実行支援に需要動向を反映させる取組みは、業界の動向を中心に情報提供した。 商談会後のバイヤーからの要望や意見等について参加事業者へ情報提供を行った。 岩手県アンテナショップ情報について、テスト販売の機会を利用して情報収集を行い、個別に情報提供を行った。 日経テレコンや情報誌等の情報提供については、個別に情報提供を行った。	数値設定なし	個別に情報提供した	—		—
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること						
(1)商談会の開催及びフォローセミナー等の開催	食品製造業の展示商談会については、参加事業者数が多いため、その理由の把握に努め、販路開拓につながるように、背景にある課題解決に取り組んだ。	商談会開催数 4回	商談会開催数 2回	B	販路開拓において、商談会への出展を希望する事業者が非常に少ない。水産加工展示商談会・伊達な商談会においては、仙台や八戸の商工会議所を中心に、実行委員会として実施していることから、充実した機会が提供出来ている。経営状況分析から事業計画の策定や策定後のフォローも含め、一連の流れの中で前向きな取り組みにつなげていきたい。	B
		サプライヤー参加 20社	サプライヤー参加 5社	C		C
		バイヤー参加者数 25社	バイヤー参加者数 61社	A		A
		商談件数 80件	商談件数 57件	B		B
(2)藤沢商工会議所と連携し、展示販売会小口取引商談会の開催	先方との調整が出来ずに実施できなかった。	数値設定なし	数値設定なし	—		
(3)店舗再開情報、釜石お店なうで販促情報を提供	小売業、サービス業については、販路開拓支援策を活用して、新規顧客獲得のため、新商品・新サービスの提供に向けて販路開拓支援策を実施した。 また、店舗復旧情報や店舗、商品、サービス情報について、情報提供した。	釜石お店なう掲載事業者数 300件	釜石お店なう掲載事業者数 241件	B	事業者数の減少もあり、掲載件数は伸び悩んだ。プロモーション支援として事業者の商品・サービスの情報について支援していきたい。	B
		釜石お店なう更新回数 300回	釜石お店なう更新回数 273回	B		B
(4)釜石市のポータルサイトと連携し、商品、サービスの情報提供		ポータルサイト情報提供件数 70件	ポータルサイト情報提供件数 0件	C	マンパワーの問題もあり、十分な取り組みにつなげられなかった。	C
Ⅱ. 地域経済の活性化に資する取組み						
1. 食品製造業による地域経済活性化事業						
岩手県沿岸広域振興局、釜石市等と支援会議を開催、地域資源を活用した地域活性化の方向性について検討 食品製造業のPR、販売拡大を目的とした企画事業を実施して、異業種連携を推進、ターゲット設定により、地域内及び地域外で開催	岩手県、釜石市等の協力をいただき、首都圏でのPR販売、テスト販売について検討をし、いわて銀河プラザ(東銀座)でのテスト販売を実施した。	数値設定なし	数値設定なし	—		—

項 目	実施概要	目 標	実 績	自 己 評 価	自己評価コメント	総合 評価
2. 小売業・サービス業による地域経済 活性化事業						
関係機関と支援会議を開催、消費拡大につながる地域活性化の方向性について検討 小売業、サービス業のPR、販売拡大を目的とした異業種連携を推進、企画事業を実施する	9月に開催されたラグビーワールドカップの試合に併せ、英語表記入りの市内飲食店マップおよび釜石ラーメンマップを作成した。開催にあわせて公共施設等に設置し、来訪者に情報提供することで来店促進および消費拡大に取り組んだ。	数値設定なし	数値設定なし	－		－